



石川労福協

第 541 号 2013年2月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 狩山 久弥
編集人 上野 貞彦
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行
定 価 一 部 20円

第36回石川労福協研究集会

地域に根差した取り組みに向けて



研究集会



狩山久弥理事長 石川労福協は、1月17日(木)石川県女性センター大会議室にて第36回研究集会を開催し、労福協事業の現状報告と課題について提起したほか、今後『福祉なんでも相談』活動を地域に展開することを視野に相談を受ける際の心得に関する研修を行った。

研究集会は、労福協会員団体やライフ・サポートセンターなどから72名が参加して開かれ、狩山久弥理事長が「常日頃の労福協、ライフ・サポートセンター活動への協力に感謝する。政権交代により新自由主義・市場原理万能主義が復活し格差拡大、貧困層増加が懸念される。連帯と相互の支え合いという協力原理が活かされる社会、ぬくもりある思いやりの社会、人とくらし・環境に優しい福祉社会の実現のため多くの皆さんと協働して『共助の輪』の繋がりを深めていきたい。一般社団法人への移行を間近に控え、より公益性の高い活動の展開に理解と協力を願う」と開会の挨拶をした。

労福協事業の現状と課題提起では、宮下亮専務理事が、子育て支援事業、無料職業紹介事業、



講演する
吉野ゆかり氏

福祉なんでも相談事業における、活動状況と傾向を報告するとともに、事業における問題点と今後の課題として「県内各地域に相談場所を設定し地域に根差した取り組みを行う」と提起した。

講演では、地域展開への研修を含め、『相談を受ける際の姿勢や聞き方』と題して、吉野ゆかり金沢大学教育学部客員キャリアコンサルタントから、「相手に感謝の気持ちをもって、寄り添うように、かつ、聴き手役に徹することを重視して相談を受けることが大切である。また、相談内容に関心を示しつつ相談内容を整理し、わかりやすい言葉で正確な情報を伝えることが、解決の糸口へと繋がる。うつ病として治療中の方の場合は、医師等専門家の指導と異なった回答をするケースがあることから、その状況を聴くことに徹する方が良い」と判りやすく説いた。

講演を受けての質疑では「心にゆとりのない切羽詰まった状況下で、電話相談が入った場合には、どのように感情をコントロールして対応すればよいか」との質問に対し、「相手の立場を尊重し、飲物を一口飲んだりして感情のスイッチを切り替えて臨むなり、手鏡で自分の顔が相談を受けるに相応しい顔をしているか緊張ある顔をしているかを確認して電話対応するとよい」と回答があり、相談対応へのいろはが享受されて研究集会を終えた。

講演を受けての質疑では「心にゆとりのない切羽詰まった状況下で、電話相談が入った場合には、どのように感情をコントロールして対応すればよいか」との質問に対し、「相手の立場を尊重し、飲物を一口飲んだりして感情のスイッチを切り替えて臨むなり、手鏡で自分の顔が相談を受けるに相応しい顔をしているか緊張ある顔をしているかを確認して電話対応するとよい」と回答があり、相談対応へのいろはが享受されて研究集会を終えた。

バリアフリー社会推進賞受賞



石川労福協は、2月14日(木)石川県庁において第14回石川県バリアフリー社会推進賞における活動部門での優秀賞を受賞した。

この表彰は、毎年行っている福祉グラウンドゴルフ中央大会において、10

年継続して石川県障害者スポーツ協会から選手を招待し、健常者と障がい者がともにスポーツを通じて競い合い、交流を深めてきたことが認められ同賞を受賞したものの。

表彰式は、県庁4階の特別会議室で行われ、労福協を代表して出席した宮下亮専務理事に、谷本正憲石川県知事から表彰状と盾が贈られた。

この受賞により、これからも障がい者と健常者との垣根の無い社会を目指し、活動を深めていくことが重要であると再認識する機会となった。

バリアフリー社会推進賞

中部労福協第3回代表者会議



川口清一中部労福協会長

2月18日(月)京都市の「リーガロイヤルホテル・京都」において、第3回中部労働者福祉協議会代表者会議が中部(北陸・東海・近畿)12府県

の労福協代表者ら46名が参加して開催された。

川口清一中部労福協会長が「社会福祉の後退・政権交代がされ、働く者の環境の変化・物価だけが上がって賃金の停滞は困る、社会保障の将来の安心が必要であり、働く者としてしっかり諸問題についてチェックをして労働者の運動の底上げをしていきたい。」と挨拶して始まり、中央労福協渡邊和夫副会長・京都労福協細田一三会長・京都府商工労働観光部但馬理事らの来賓挨拶の後、議案審議に移り、全議案提案どおり承認された。

続いての基調講演では、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター寺田敏紀専務理事が「時を超え光り輝く京都の景観づくり」と題して、京都の歴史景観の価値として環境共生が大事であり、新しい規制①建物の高さ、②デザイン(建物等)、③眺望、④野外広告規制の強化、⑤歴史的な町並みの保全・再生、⑥森林の保全・再生に取り組む、よりよいまちづくりに向けた活動をしているとの講演があり、代表者会議を終了した。

県 LSC 事務局次長 太田敏信

これからの行事予定

(2月25日現在)

開催日	曜日	行 事	会 場
2月27日	水	労福協 第6回理事会	フレンドパーク石川
28日	木	石川県ユニセフ協会理事会	地場産センター
3月5日	火	労福協 第7回理事会	フレンドパーク石川
〃	〃	労福協 2012 年度(第51回)臨時総会	同上
〃	〃	県 LSC 第9回ライフ・サポートセンター代表者会議	同上
6日	水	中部会館協 第3回幹事会(～7日)	福井県
7日	木	勤文協 第45回写真サロン展打合せ	フレンドパーク石川
8日	金	公益法人 一社 決算実務特別講習会	大阪市
9日	土	労福協・子育てネット 第1回子育て支援セミナー	フレンドパーク石川
12日	火	中央労福協 地方労福協会議(～13日)	福島県
22日	金	県 LSC 事務担当者研修会	金沢都ホテル
4月4日	木	勤文協 撮影研修バス旅行	奈良県
11日	木	中央労福協 地方労福協事務担当者研修会(～12日)	神奈川県
〃	〃	全国会館協 第2回幹事会(～12日)	静岡県

アジア・アフリカ支援米を発送



支援米をトラックに積み込む代表ら



狩山久弥代表

食とみどり、水を守るいしかわネットワークは、今年も飢餓に苦しむアジア・アフリカの子ども達を支援するために昨年作付し収穫した米を支援米として発送した。

発送式は、2月6日(水)金沢市西念のフレンドパーク石川において、同ネットワーク幹事や支援者ら約30名が参加。はじめに同ネットワーク代表の狩山久弥連合石川会長が「助け合いの精神をもって飢餓に苦しむアジア・アフリカの国への支援として取り組んできているが、昨年は米の作付箇所を1ヶ所増やしたほか、カンパ米の取り組みも拡大し、支援の輪を広められた。今後も、世界の食料難に苦しむ人たちへの支援を皆さんの協力により広めたい」と挨拶があり、続いてこの活動に参加している山本由起子、麦田徹両金沢市議会議員が引き続き活動に協力していきたいと挨拶があった。

今回発送した支援米は、昨年、能登町、七尾市、金沢市、小松市の4ヶ所で生産した1,290kgのうち、金沢市での生産分の270kgで、アフリカのマリ共和国の子ども達や貧しい人々に、マザーランドアカデミーを通じて届けられる。

また、残る支援米1,020kgとカンパ米は、この先、カンボジアへ送られる予定。

食とみどり、水を守るいしかわネットワーク総会



代表挨拶に立つ狩山久弥代表

労福協、連合石川などが参画する食とみどり水(食とみどり、水を守るいしかわネットワーク)は、2月8日(金)フレンドパーク石川において、役員や協力団体の代表者等約40名が参加して第7回総会を開催した。

狩山久弥代表(労福協理事長、連合石川会長)が、「昨年、活動の場を田んぼの他、山、海へと拡大し、農業体験等を通じ食の重要性や自然の大切さを実感する活動を行ってきた。次年度は、これらの活動を連携するなど相互に高め合う活動に繋げるものとしていきたい」と挨拶した。続いて、事務局から2012年度活動報告、会計報告などが承認された後、2013年度活動方針及び予算、2013年度役員の選出が提案され、予定した全議案を承認して終了した。

活動方針では、「ふれあい農業」、「ふれあい漁業」に加え、昨年、試験的取組みとした「ふれあい林業」も本格的に実施することを確認した。

「お米のカンパ」 お願いします

自宅に余っているお米をカンパしていませんか。食とみどり、水を守るいしかわネットワークは、海外支援米としてカンパ米(玄米)を募集しています。

詳しくは、「食とみどり、水を守るいしかわネットワーク事務局」までお問い合わせください。

電話 076-265-5505

勤労者早春書画・生花展 新春を書と絵と生花で彩られる

勤文協(石川県勤労者文化協会)は、1月24日(木)から金沢市内ラブリ片町のアートシアターいしかわで「第43回石川県勤労者早春書画・生花展」を開催した。

この展覧会は、石川労福協と北國新聞社が後援して27日(日)までの会期で行われたもので、県内の勤労者などのアマチュア作家が制作した日本画、洋画、書道の作品87点が展示された。

また、草月流、池坊流の華道家が、会場に20点の生花を添え、一層の彩りを加え華やかな展覧会となった。



洋画の合評

洋 画



招待出品
いもり池
越崎 順子(金沢市)



石川労福協理事長賞
するめ
西井 久雄(金沢市)



北國新聞社長賞
大きな柚子
小島早和子(金沢市)



金賞
希望
多田よし美(金沢市)



銀賞
ざくろ
久保眞喜子(津幡町)



銅賞
静寂(へらぶな)
南保 清和(金沢市)

日本画

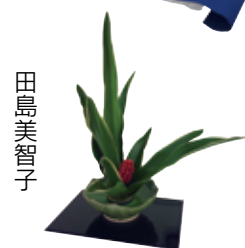


北國新聞社長賞
土塀・秋の彩り
辰村喜代美(金沢市)

生花



山田 玉峰



田島美智子



小林 嶺智



中村 雨光

書 道



招待出品(奨励賞)
紀友則の歌
清澤 雅子(白山市)



勤労者文化協会会長賞
無声に聞く
宇野緋紗子(金沢市)



石川労福協理事長賞
柏葉壽
滝田 良子(金沢市)



北國新聞社長賞
吐
渋谷 睦子(内灘町)



金賞
雲遊
鞍田 幸栄(白山市)



銀賞
琢朴の歌
辻 良子(金沢市)



銅賞
山光澄我心
土谷 節雄(金沢市)

消費生活向上フォーラム



金戸清外志
県民生活課課長

消団連(石川県消費者団体連絡会)は、2月9日(土)石川県の受託事業として「消費生活向上フォーラム」を県地場産センター新館コンベンションホールにおいて開催し、約130名の消費者らが参加した。

フォーラムは、「走れ!くらしのランナーズ」と題した悪質商法追放爆笑寸劇で会場を和ませてから始まり、主催者の石川県から金戸清外志県民生活課課長が挨拶し、日本弁護士連合会消費者問題対策委員会委員の池本誠司弁護士が「消費者市民社会の実現とネットワークの役割」



池本誠司弁護士

をテーマに「悪質業者は、手を替え品を替え高齢者や若者を狙っており、悪質商法による被害は止むことが無い。消費者個々で防ぐには限界があり、地域の一般消費者・生活者と連携

して行動することが重要である。また、自ら考え行動する意欲のある消費者を育成するために継続した学習

の機会を設けることや、学校教育においても消費者教育を行っていくことが重要である」と基調講演した。

続いて、尾島恭子金沢大学人間社会研究域学校教育系教授がコーディネーターとなり、池本弁護士、渡邊智美弁護士、新屋康夫石川県消費生活支援センター相談課長、青海万里子県消団連事務局長がパネリストとして行われたパネルディスカッションでは、事前に会場から出された質問に答えつつ、地域で連携し情報の交換・共有をすることが被害防止に繋がっていくと締めくくった。



パネルディスカッション

東日本大震災復興支援・現地視察報告

「東日本大震災の現地を視察して」

平成23年3月11日の東日本大震災が起きて以来、自分自身にとって何が出来るか模索中の折、ライフ・サポートセンターより現地視察の話があり躊躇なく参加する事にした。

現場の視察の終了後、宮城県と同僚仲間との意見交換と翌日、現地の様子の詳しい方より報告を受けた。それによる被災者の皆さんは異口同音に①被災現場をしっかりと見て欲しい、②そして被災者の声を聞いて欲しい、③訪れて風評に左右されることなく被災地の商品を購入して欲しい、④この出来事を風化されることなく忘れないで欲しい、と語っていた。

地元へ帰り、河北ライフ・サポートの10周年記念行事として6月にかほく市でさつまいも(鳴門きんとき)を植えた企画を思い出し、10月に収穫することになっているので被災地に送ることにした。

その際、被災地の事に関心をもってもらおうと小生の近所の小学生9名と母親3名にも参加

してもらうことにした。

加えて河北ライフ・サポートからも70株(さつまいも300個程)を無料で提供していただ

き、以前津波に遭った被災地の様子をNHKで紹介されていた2ヶ所の方(南三陸町と陸前高田市で今なお仮設住宅に在住)をメモしていたのでその方々に送ることとした。

また、この冬には、つけもの文化の発達した東北ではどうかと思ったが、津幡特産の「かぶら寿司」を2回に分けてそれぞれに送ったところ喜んでくれた。

今年の1月初めには東北で獲れたこんぶ、わかめ、もずくなど海産物を送っていただいた。今年もこの企画を継続する考えでいる。

このたびは被災地視察の企画をしていただき、それに参加できたことを感謝している。有り難う御座いました。河北地域LSC 桑江朝英



被災地復興を願い有志が作った陶器を販売する店の前にて

河 北 L S C

生活設計セミナーを開催



河北地域ライフ・サポートセンターは、2月3日(日)津幡町のサンライフ津幡において、講師に社会保険労務士谷内美穂

子氏を迎え、生活設計セミナーを開催した。

今回は北國、北陸中日の両紙に、手作りチラシ1万枚を折込みしたほか、手作りポスターも津幡町、かほく市の公共施設に掲示して参加を呼びかけた結果、津幡町、かほく市から27名が参加した。参加者には、夫婦連れが多く見られ、関心の高さが伺えた。

セミナーは、谷内講師が用意した資料をもとに説明したあと、出席者から質問が相次いだほか、4～5人が個別相談で熱心に質問するなど、今までに無い活気あふれる有意義なセミナーとなった。

河北地域 LSC 事務局 吉川武久

勤 体 協

第47回県勤労者冬季卓球大会(2月3日・いしかわ総合スポーツセンターサブアリーナ)
◇硬式男子▽1組 ① 栗崎公民館A②はなまるto J③ファニーズ▽4組 ①あけぼのクラブ②栗崎公民館B③ウインズ夢

◇ラージシルバー▽男子 ①白山クラブ②ななおクラブ③のとまりしま▽女子 ①能美クラブ②ななおクラブ③京華クラブ
◇ラージゴールド▽男子1組 ①能美クラブA②白山クラブ③京華クラブA▽男子2組 ①大浦公民館A②南加賀クラブA③内灘クラブ桜▽女子1組 ①七

尾スタース②南加賀クラブB③内灘クラブ梅▽女子2組 ①南加賀クラブA②金沢兼六クラブ③能美クラブ
第47回県勤労者冬季バスケットボール大会第1日(2月10日・野々市市民体育館)
◇男子1組 ①NWS②神風③フレンズ

第47回県勤労者冬季バスケットボール大会(2月24日・内灘町総合体育館)
◇男子3組 ①NAKAZIMA②ルザイズ③est monte
◇男子4組 ①ELEGY②チェンバース③えれげん
◇男子2組 ①MOB・Z②ROTTERS③松本クラブ
◇女子1組 ①TNP②GALES③FRESH

ZENROSAI NEWS

僕は、
こくみん共済。

安心して生きていく。自分も、家族も。

こくみん共済

個人定期生命共済・こども定期生命共済・期年定期生命共済・傷害共済・個人賠償責任共済・健康生命共済・個人長期生命共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

ここに記載されている内容は、共済商品の概要を説明したものです。ご契約の際は「ご契約のてびき(契約概要・注意喚起情報)」等を必ずご確認ください。

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

